

Exploratory Research ASEAN(タイ)日本人起業家研究

—タイにおける日本人起業家の実証研究—

An Exploratory Research on Japanese Entrepreneur in ASEAN

—Interview Research on Japanese Entrepreneur in Thailand—

従前の初期段階の Exploratory Research 探索的研究では、2次情報を中心としたアセアン日本人起業家に関する経営環境の調査と研究テーマに関する先行者研究の不足を補うための調査研究を行ってきている。発表の趣旨は、本初期段階の Exploratory Research 探索的研究をベースに、実際にタイで、日本人起業家に関する実証調査研究に基づいた内容の発表を意図している。現在、9月と、10月にタイ調査出張を予定しており、本データと分析を合わせて発表する予定である。

本研究「ASEAN 日本人起業家研究」では、東南アジアの日本人起業家が、煩悶苦闘の末「イノベーション」を起こして成功し、起業し・グローバル環境下で経営を行っている実態を調査研究する。

失われた20年で自信を喪失した日本に対し、東南アジアにおいて、試行錯誤で活路を切り開く日本人起業家たちの実証研究をすることによって、

- ① 希望を失いがちな学生、
- ② イノベティブな経営ができない企業

に対して重要な示唆を得ることを主眼としている。

研究の教育・学術的背景

大学の数百人の教室で、生徒に「将来海外で頑張りたい人はいますか?」「将来事業を起こして起業してみたい人はいますか?」と問うたところ、手を挙げる大学生は殆どいない。この現状を見て、「彼らをモチベートすることができるのは何か」ということを自身に問うた時に、本調査研究の実現を志した。このように若者の

- ① 起業家精神離れ(日経新聞 2013,片岡・齋藤他 2015)),
- ② 海外離れ(日本旅行業協会 2015)
- ③ 創造力、イノベーションの欠如(アドビ社 2017)

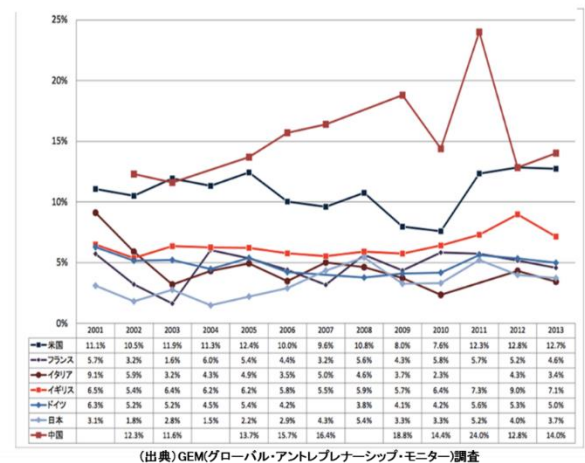
が指摘される中、本研究は、学生を活性化し、「世界で戦える学生」を育てる上で重要な示唆を提言できる。さらに、

- 1)「井の中の蛙状態で海外進出できない企業の経営者」、
- 2)「アイデアはあるものの起業できないビジネスマン」、
- 3)「会社の閉塞感の中で新事業を起こせない経営幹部」

等にも有益な示唆を提言できる。

本研究者のパイロット研究によれば、従来研究の対象である日本の経営者や、海外駐在員に比べ、日本

日本の起業活動指数TEAは、世界最低レベル



人起業家は、

- a)海外という非常に厳しい経営環境下において、
- b)日本では想定できないような様々な困難に直面し、
- c)試行錯誤の末問題解決し、同時に
- d)東南アジア現地の経営環境を活かした様々なイノベーションを巻き起こし、

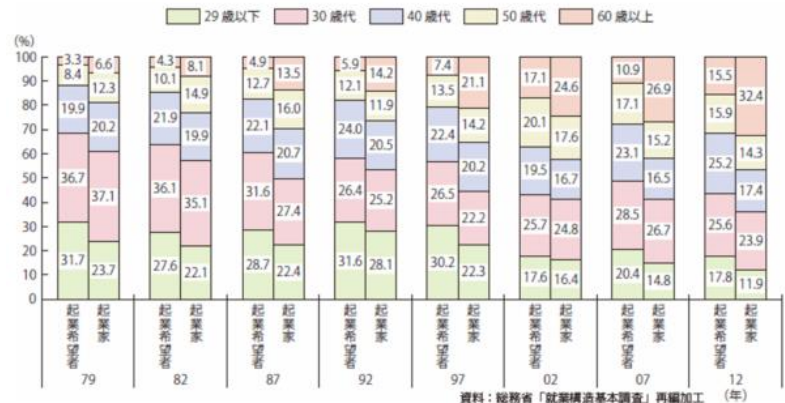
現在の地位を築いている。このような、東南アジアの日本人起業家の問題解決とイノベーションに関する包括的、体系的な研究は、学術的にも、日本企業、学生にとっても重要な示唆が得られる。

問題提起

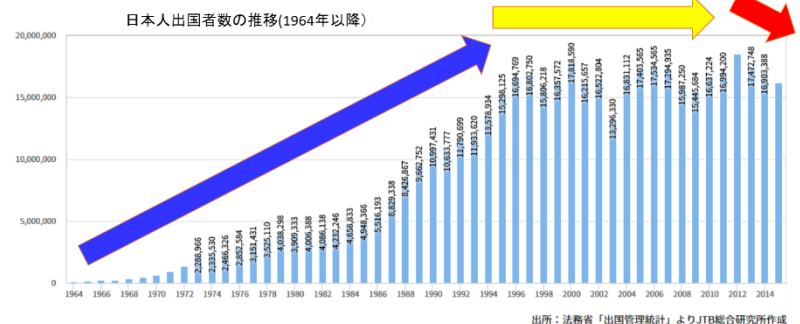
「起業家革命は米国経済を牽引する」(ウィルソン・ハーレル 2006)とあるが、国の成長率とその国の起業率(開業率)には明らかな相関があり(松重 2016)、我が国の失われた 20 年を回復するには起業家の息吹が不可欠である。しかしながら、GEM(グローバル・アントレプレナーシップ・モニター)調査(磯部・矢作 2011)によれば、総合起業活動指数 TEA に関して、日本は、米国の半分以下で、世界でも極端に低い。日本の起業活動率の推移は、リーマンショック時に多少上がったものの主要 6 か国の中でも長期低迷している。

また、年齢構成でも起業家も起業希望者も 29 歳以下比率減少と若い世代の起業へのモチベーションが極めて低い。さらに、国際志向性に関しても、海外出国日本人は、停滞から、減少に転じた。海外志望の学生は減少傾向にある。これらは、日本の失われた 20 年の元凶ともいえる問題点である。

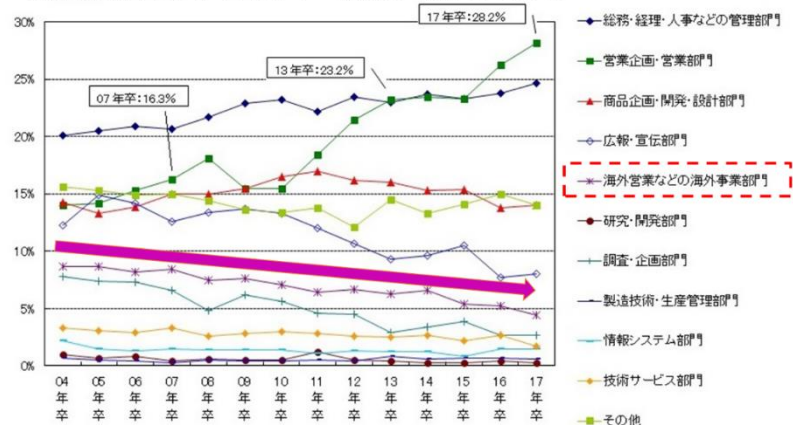
起業家も起業希望者も若者(29歳以下)比率減少



日本の海外出国人数は長期停滞から減少へ



海外志望の学生は年々減少傾向にある



先行者研究

日本では、起業家精神に関する学問分野がまだ体系化されておらず(中島 2012) 学術的な遅れも目立つ。また、東南アジアの日本人起業家等による実証的な研究は少ない。東南アジア日本人起業家のイノベーションの先行者研究も然りである。起業家の地域ネットワークに関する研究は、アメリカの各地(サクセニアン 2009、金井 1994、福島 2013) や、日本の各地(加藤 2009、西尾 2007、森本 2009、山田 2013) の起業家地域ネットワークに関しての研究も多く存在する。東南アジアに関する企業家の地域ネットワークに関しては、華僑のネットワークの研究(末廣 1993、原 1988、佐藤 1993、平野 2008) はあるが、日本人起業家ネットワークである和僑に関する研究は中国・東アジア(堀内 2015) に限られ、東南アジアにおける日本人起業家ネットワークグループ(和僑等)の研究はほとんどなされていない。本東南アジアの日本人起業家の体系的な質的実証研究はこれからの時代を切り開く重要な分野にもかかわらず十分な研究がなされておらず、学術的な貢献は大である。

調査研究方法論

本研究では、下記 2 点の理由により、事例研究を元にした仮説構築型の研究を行う

第 1 にまだ明らかでない現象を出発点として探索的に検討を開始することで、事例研究は新規性の高い理論を構築するのに適切な手法だからである。事例研究は、このような新規理論を生み出す可能性が高い。(Eizenhardt, 1989)。

第 2 に、本研究は、データの検討を通じて理論の構築を徐々に行っていく手法を採用する。事例研究は研究の途中で修正を繰り返すことによって、徐々に問題関心や仮説の精緻化を図ることができる。(Grazer and Strauss, 1967 ; Eizenhardt, 1989)。

研究内容

本研究では、実際に日本人起業家がどのように事業を立ち上げているか、その過程において起業家精神と非常に関係性の高いイノベーション理論がどのように生かされているかについて研究する。

目まぐるしく変化するグローバル経済下の東南アジアの経営環境の情報整理・分析とともに、実態把握のために約 10 名程度の日本人起業家(タイ、マレーシア、シンガポール)と面談する。東南アジア各国の経営環境の違うところで、どのような面で苦労して事業を立ち上げてきたか、ビジネスチャンス、脅威 を明確する。ここでは起業家の重要な要素であるイノベーションの見地から分析を行う。すなわち、イノベーション理論を使って起業家がどのようなイノベーションを起こして起業に至ったかを分析する。起業家は、どのような機会「7つの機会」(ドラッカー2007)を活かして起業に 繋げているかを分析する。

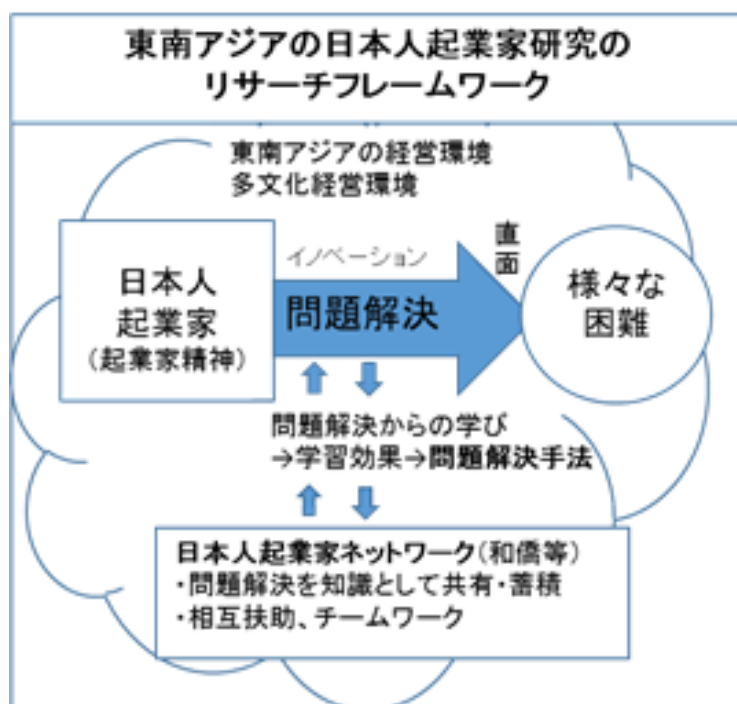
また、何の、どんなイノベーションを引き起こしたかについて、「5つの類型」(シュンペーター1977)

を使って分類し分析する。詳細に設計された「インタビュー ガイド」を使った半構造化インタビューで、5 Why などのインタビュー手法を使って詳細かつ深い内容の情報を

イノベーションの7つの機会	
ドラッカー	
①	予期せぬことの生起。予期せぬ成功、予期せぬ失敗、予期せぬ出来事。
②	ギャップの存在。現実にあるものと、かくあるべきものとのギャップ
③	ニーズの存在
④	産業構造の変化
⑤	人口構造の変化
⑥	認識の変化
⑦	新しい知識の出現

イノベーションの5つの類型	
シュンペーター	
①	新しい財貨の生産
②	新しい生産方法の導入
③	新しい販売先の開拓
④	原料あるいは半製品の新しい供給源の獲得
⑤	新しい組織の実現(独占の形成やその打破)

得る。(現在、分析中)



<参考文献>

- 磯部剛彦・矢作恒夫(2011)「企業と経済成長」慶應義塾出版、
ウィルソン・ハーレル (2006)「起業家の本質」英治出版、
P.F.ドラッカー2007「イノベーションと企業家精神」上田 淳生 (翻訳)ダイヤモンド社、
J.A. シュムペーター1977「経済発展の理論」塩野谷 祐一,東畑 精一,中山 伊知郎 (翻訳)岩波文庫、
末廣昭(1993)「タイの企業組織と後発的工業化」アジア経済研究所、
原不二夫(1988)「新経済政策下の華人企業」アジア経済研究所、
佐藤百合 (1993)「インドネシアにおける企業グループの所有と経営」
アジア経済研究所、平野實(2008)「アジアの華人企業」白桃書房
中島治久 (2012)「MBA のための起業家精神講義」同文館出版、
堀内弘司(2015)「中国で生きる和僑たち」桜美林大学北東アジア総合研究所
米倉誠一郎(1998.9)「企業家および企業家能力—研究動向と今後の方針—」『社会科学研究』第50巻
第1号